

令和８年度 第１回富山市障害者自立支援協議会（全体会） 会議録

日 時：令和８年８月６日（木） １４：００～１５：３０

場 所：富山市障害者福祉プラザ多目的ホール

出席者：宮 口 克 志 委員、宮 田 徹 委員、石 田 陽 一 委員
竹 内 睦 美 委員、西 野 満 男 委員、青 木 誠之助 委員
長 澤 正 雄 委員、松 山 智 子 委員、清 水 隆 委員
久 保 寿 市 委員、土 肥 裕美子 委員、野 口 雅 司 委員
鈴 木 義 治 委員、前 島 靖 彦 委員、
室 谷 ゆかり 委員（代理 大島 明子氏）、長 谷 健 吾 委員

欠席者：小 林 寿 夫 委員、舟 坂 雅 春 委員、吉 田 智 子 委員
橋 本 英 徳 委員

事務局：山本 福祉保健部長、大野 福祉保健部次長、沼崎 こども家庭部次長
有馬 障害福祉課長、栗山 こども健康課長、谷川 保健予防課長、
橋立 障害福祉課主幹、初田 障害福祉課副主幹、林 こども健康課副主幹
前澤 障害福祉課企画係長、元尾 障害福祉課自立支援係長
川堰 障害福祉課障害福祉係長

市委託相談支援事業所等：

自立生活支援センター富山、富山市恵光学園、あすなろセンター、
和敬会生活支援センター、ゆりの木の里、
富山障害者就業・生活支援センター、富山市障害者福祉センター基幹相談支援室

議 題：

- １ 富山市障害者計画等の策定について
- ２ 委託相談支援事業者の運営等に関することについて
- ３ 基幹相談支援室の事業等について
- ４ 地域の関係機関によるネットワークの構築について
- ５ 障害福祉計画の進捗状況について
- ６ 障害児福祉計画の進捗状況について
- ７ 障害福祉の現状について

（会議資料）

- １ 富山市障害者自立支援協議会委員名簿
- ２ 座席表
- ３ 関係資料

議事概要：

1 開会

2 役員改選

委員などの発言要旨：

(事務局)

会議に先立ちまして、今回は委員の委嘱が行われてから初めての会議となりますので、本会議の会長選出についてお諮りしたいと思います。富山市障害者自立支援協議会運営要綱第4条の規定により、会長は、委員の互選により定めることとなっております。

(事務局)

事務局案といたしましては、宮口委員に会長をお願いしたいと考えておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

(事務局)

ご承認いただければ、委員の皆様の拍手をもってご賛同願いたいと思います。

(委員)

(拍手をもって承認)

(事務局)

それでは、宮口委員に会長をお願いしたいと存じます。

(事務局)

運営要綱第4条の規程により、副会長は会長が指名することとなっております。会長より、副会長の指名をお願いいたします。

(会長)

副会長は、前任次期から引き続き、宮田委員をお願いしたいと思います。

3 議事

開 会

(会 長)

それでは議題に入らせていただきます。

今年度第1回目の富山市障害者自立支援協議会でございます。今回の会議は、議題1から議題7までの計7つの議題があります。

【議題1 質疑・意見等】

(委 員)

インクルージョンの推進、協議の場の設置ということが重要である。

教育の場においても、学習指導要領の中で、共生社会の担い手の育成ということが言われている。障害者施策だけでなく、広い視野を持って、一般施策の中にインクルージョンしていくことが必要である。

また、障害福祉サービスの量が増えたことで中身の格差が生じないように、質の向上を図っていく必要がある。

(委 員)

コロナ禍以降なのかもしれないが、支援学校で行事がある際に、地域に対しての案内がない。民生委員など地域へ案内をし、学校行事に参加できるようにしていくことも、地域共生社会につながっていくのではないかと。

(委 員)

「地域共生」が重要だと考えるが、現在の計画では基本施策の中に「地域共生」の言葉があるが、次期計画案では無くなってしまっていることが気になった。

(事務局)

「地域共生」の言葉は基本理念の中に含まれており、施策全体にかかっているものと考えていることから、次期計画案の基本施策からは外したものでありますが、改めて検討して参りたいと思います。

(委 員)

障害のある方に対して、適切な医療を提供していくことが必要である。

(委 員)

障害のある方を支える人材が足りない状況の中、人材確保をメインに据えることには意味があると感じた。

(委 員)

人材確保・育成について、事業所では日々の業務が忙しく、なかなか職員をマネジメントする時間が取れないという問題がある。

(委 員)

介護分野では介護事業所に対して、介護福祉士実務研修への補助制度があるが、障害福祉事業所は補助制度の対象になっていない。障害分野に対しても、介護分野と同様の支援をしてほしい。

(委 員)

熊本地震が発生し、障害者の状況や対応が気になっている。富山市では知的障害者の7割が在宅で生活しているが、災害発生時に長期間避難所で生活することは障害特性から困難で

ある。福祉避難所の整備について計画していただきたい。

(委 員)

心の病は14歳くらいから増える。災害時の心の病への対応が必要である。

(委 員)

難病の方については、災害時の避難に加えて、薬が何日持つかや、冷蔵が必要な薬の保存という問題もある。

(委 員)

地域での自主防災組織の結成など、防災対策自体を強化していくことも必要である。

(事務局)

災害対応については、連携体制をしっかりと整えていくことが重要であり、市においても防災部門と連携とりながら対応していきたいと考えております。

(委 員)

支援学校を卒業して、社会に出る際の就労等のマッチングが難しいので、サービスの受け方などを相談できる機関があると良い。

(委 員)

就学時には、両親が働いている時間帯に放課後等デイサービスを利用できていたが、卒業後に就労継続支援A型やB型を利用し始めると、早い時間帯に利用時間が終了してしまうため、一人で留守番ができない場合は保護者が仕事を辞めざるを得なくなる、18歳の壁という問題がある。そのような場合に日中一時支援の活用ができるようにするなど、サービスの拡充を検討してほしい。

また、全国的な問題だけでなく、富山ならではの問題について対応していただきたい。

(委 員)

就労について、難病の方は病状の進行に伴い、一般就労から就労A、就労Bと移行していくため、スムーズに移行できるようサポートが必要である。

(委 員)

施設入所者の地域移行については、本人の意向を確認して進めている。施設から在宅へ移行するに当たっては、一旦グループホームへというパターンが多い。

一方、施設への入所を希望する待機者の把握はできていないように思っており、そのような方の実態を把握していくことが必要である。

(委 員)

障害福祉の問題が複雑化していく中、医療、介護との連携や、地域団体との協力がより重要になっていく。

(会 長)

教育の場においても、学びの多様化学校や、校内サポートルームを整備することで、それまで登校できていなかった児童が登校できるようになった事例がある。そのような環境を整えていくことが必要である。

【議題 2 ～ 7 質疑・意見等】

（委員）

障害から介護へ移行する 65 歳の壁という問題がある。制度についての理解を進めるため、パンフレットの配布など、介護移行についてしっかり周知していく必要がある。

（事務局）

介護サービスでは賄いきれず、障害福祉サービスを利用する事例も増えており、対応については今後検討していきたいと考えております。

（会長）

何かご質問などございますでしょうか。

それでは以上で本日の議題はこれで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉 会